

昭和20年4月8日、曇り。
11時頃、田崎国民学校に
空襲警報が鳴り響いた。



昭和2～4年頃の校舎

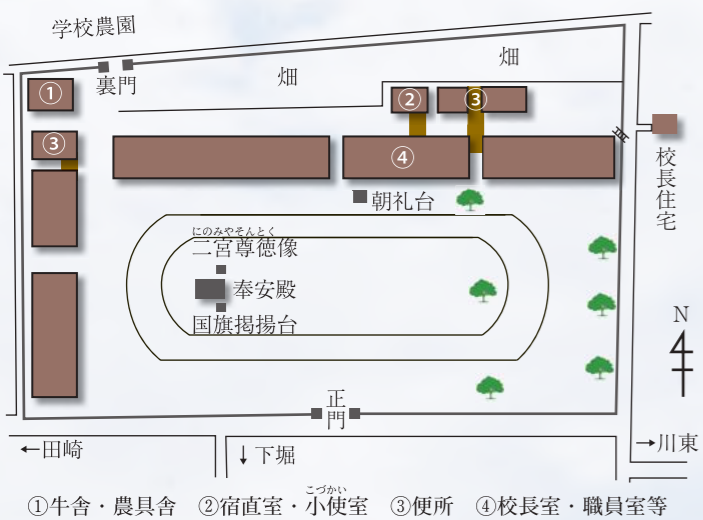
この日、現在の田崎小学校の場所にあった田崎国民学校は、米軍機 B-29 による爆弾の直撃を受けました。学校の校舎は壊滅し、教員2人と警防団員（現在の消防団員）1人がその犠牲となるなど、大きな被害を受けました。

なぜ学校に爆弾が落とされたのか、明確な理由は分かっていませんが、その日は厚い雲に覆われていたため、基地などと間違えて誤爆したという説があります。

現在、田崎小学校の校庭の片隅には、殉職した大石伝吉教諭、中村重雄教諭、穂山末盛氏の3人をしのぶ「頌徳碑」が建てられています。

図説 戦時中の田崎国民学校

（穂山睦男さんの回想を基に作成した見取図）



空襲を受け、平屋1階瓦葺きの校舎は、爆弾と爆風で屋根が飛び、瓦が台風後の木の葉のように散乱。校庭には数十か所に直径2～3mもある穴が開き、耕した畑のようにポコポコになっていたと言われます。以降、終戦を迎えるまで、学校で授業は開かれず、集落別に分散授業が行われました。

語り継ぐ、あの日の空

～73年前、学校に爆弾が落ちた日のこと～



四月八日 日曜日 小雨後曇
春雨地を湿した後、終日どんよりとして南西諸島飛行不適、索敵追撃の手及ばざるを憾む。之に反し10時頃都井岬の南東より敵数群近接し飛行場より相当地離れる村落に小型爆弾30個程度投弾、野良仕事の農夫を介し御真影奉安の小学校長（※）を殉職せしむ。蓋し雲上よりする旨爆はて遂にその機影を認めず、結局はマリアナよりする大型機と判定せり。
（第五航空艦隊司令長官・宇垣纏「戦深録」より抜粋し表記を一部修正）
※実際は校長ではなく教員



鹿屋小学校にあった奉安殿（昭和3年）

解説 奉安殿と御真影

奉安殿は、戦前・戦中の学校で天皇と皇后の写真（御真影）と教育勅語を納めていた建物。祝賀式典の際に職員・生徒で御真影へ最敬礼と教育勅語の奉読が行われたほか、登下校などで奉安殿の前を通る際は最敬礼することが定められていました。

今年、昭和20年の終戦から73年目にあたります。太平洋戦争末期、日本本土では米軍による数多くの空襲が行われました。空襲では、軍人だけでなく、子どもから大人からまで多くの人の尊い命と生活が奪われました。
鹿屋や串良などの特攻基地があった市内でも、昭和20年3月18日以降、米軍機による空襲が相次ぎました。
同年4月8日の日曜日には、サイパン島・テニアン島から出撃した米軍機53機が、鹿屋基地や笠野原基地などを攻撃するために県内上空に飛来。
この空襲では、田崎国民学校（現在の田崎小学校）に爆弾が投下され、宿直の教員らが殉職し、学校周辺でも多数の死傷者が出るという悲劇が起きました。もし、この日が平日だったら、授業中の生徒たちが多数犠牲となり、戦争史に残る大惨事になったと言われています。
田崎国民学校に爆弾が落ちた日、学校ではどのようなことが起きていたのでしょうか。当時の生徒で、空襲を体験した人たちの証言から、その日の様子を探ります。